

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3871100230		
法人名	有限会社 コミュニティーハウス		
事業所名	グループホーム・コミュニティーハウス北条		
所在地	松山市北条5 8 8 番地3		(電話) 089-993-9390
管理者	和田 博文		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1 - 3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年10月14日	評価確定日	平成20年11月4日

【情報提供票より】 (平成20年9月1日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成14年3月26日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18人	常勤	10人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.9人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		
(3)利用者の概要 (平成20年9月1日現在)			
利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	5 名
要介護5	4 名	要支援2	1 名
年齢	平均 81.2 歳	最低 49 歳	最高 100 歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

窓からは、高縄山が眺められる。犬や猫を飼っておられた。
 食材や洋服等の買い物に出かけられたり、毎朝の散歩を日課とされている方もおられる。利用者、ご家族、職員合同で、大三島や道後の1泊旅行や忘年会を楽しまれている。
 「文芸春秋」を毎月購読される方、編み物をされる方、折り紙作品を他の利用者の方に差し上げる方等、利用者一人ひとりが楽しい時間を送ることができるよう、支援に努めておられる。昼食後、新聞記事を話題にして、職員との語らいを楽しまれている利用者の様子がうかがえた。訪問時、100歳を迎えられた方の誕生日会が催され、花束とプレゼントを贈り、和菓子を召し上がりながら、皆さんでお祝いされていた。

【質向上への取組状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
・前回の評価結果を受けて、地域との関係性を深めることに特に力を入れて取り組まれた。
今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
・自己評価は、ユニット毎に取組み、管理者がまとめられた。管理者は、「日々の支援を確認しあい、職員一人ひとりの考えやケアに対する姿勢がよく分かった。」と話しておられた。又、職員は、「利用者一人ひとりの、その人らしい暮らしを大切にすることの重要性」を再認識された。
運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
・会議には、利用者も出席して行われている。事業所から地域行事への参加状況を報告されたり、区長の方より行事の案内もいただいている。管理者は、会議を通じて地域との関係も深まってきたと話しておられた。
家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
・ご家族の来訪時や電話で、利用者の健康状態や日々の暮らしぶりを報告されている。医療費等は、領収書の原本をお送りするようにされている。又、行事時やお誕生日会の写真等を載せた季刊誌「風早のお便り」をご家族に送っておられる。
日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
・事業所を秋祭りのだんじりの休憩所に提供されたり、地域の清掃活動等にも積極的に協力されている。又、事業所の「納涼祭」には、多くの地域の方達が来られ、小中学生の保護者の方も手伝いに来てくださった。区長さんの紹介でボランティアの方が訪問してくれるようになった。

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム・コミュニティーハウス北条

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 和田 博文

評価完了日 平成 20年 9月 20日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフや利用者・家族、皆が理解しやすいように、分かりやすい言葉を使って作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「地域と共に利用者が当たり前暮らしさせる社会作り」に取り組み、「地域に貢献できる事業所」を目指しておられる。</p>		理念を、そのまま暗記するのではなく、スタッフそれぞれが覚えやすい言葉で理念を理解し、心に留めながら利用者のケアにのぞめるように努める。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>理念を目につく所に明示したり、職員会等で定期的な理念について話し合うことで、理念を皆で共有できるように努めている。又、理念の一部を一日の目標として取り組むことでスタッフ皆が理念にそったケアを実践できるように勤めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>理念を玄関や居間等に掲示し、すべての職員で共有しながら、ケアを実践できるようにされている。</p>		新しく理念に取り入れたいことがあれば、スタッフ皆で話し合い、取り入れたりし、確定されたものではなく、より良いものになるように進化していても良いと思う。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議や家族会等で、理念について説明し理解を得ているが、どこまで理解してもらえているかは分からない。</p>		事業所が地域や社会に対して、どのような役割を果たしているか、事業内容や理念・方針等含めてもっとアピールしていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 自治会に加入してからは回覧板を回したり、区費を納めに近所の方の自宅に訪問することで、徐々に近所の方とスタッフが顔なじみの関係になりつつある。ホームで飼っている犬や猫の世話をしに近所の子供がよく遊びに来てくれる。		今、出来ていることを、積極的に行なうと共に、地域活動への参加をもっと行なうことで、より多くの地域の方との交流を図っていきたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の区長さんと、話し合う機会を多く持ち、行事等への参加も積極的に行なっているが、まだ職員のみが参加したり、利用者が参加しても同じ方ばかりの参加になっているように思う。 (外部評価) 事業所を秋祭りのだんじりの休憩所に提供されたり、地域の清掃活動等にも積極的に協力されている。又、事業所の「納涼祭」には、多くの地域の方達が来られ、小中学生の保護者の方も手伝いに来てくださった。区長さんの紹介でボランティアの方が訪問してくれるようになった。		行事の内容をみながら、一人でも多くの利用者が、地区の行事に参加できるようにしていきたい。職員不足が参加できない要因にならないように、人員の確保にも努めていきたい。 事業所では、「積極的な自治会活動への参加」を今年度の目標にされており、今後、老人会や地域サロンとの交流をすすめていきたいと話しておられた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方が見学に来られたとき、介護についての相談があれば、その都度相談にのれるように努めている。地域の方から得た情報をもとに、スタッフ同士や場合によっては他事業所のケアマネ等に相談できる体制づくりをしている。		地域の方からの相談を待つのではなく、こちらから働きかけることで、もっと幅広く地域に貢献できるように努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価項目をこなしていくだけではなく、事業所独自の色を出せるように努めている。また、自己評価や外部評価を行なうことで得た気付きを職員会やカンファレンス等で話し合うことでスタッフの意識を高めている。 (外部評価) 自己評価は、ユニット毎に取り組む、管理者がまとめられた。管理者は、「日々の支援を確認しあい、職員一人ひとりの考えやケアに対する姿勢がよく分かった。」と話しておられた。又、職員は、「利用者一人ひとりの、その人らしい暮らしを大切にすることの重要性」を再認識された。前回の評価結果を受けて、地域との関係性を深めることに特に力を入れて取り組まれた。		言われたことだけではなく、評価を機会に、自分たちの取り組んでいる事への見直しや改善に努めていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)			
			運営推進会議には管理者・計画作成担当者が参加している。その話し合いの内容や意見等を議事録といつでも見られるようにしているが、全てのスタッフがそれを見て、話し合いの内容を理解してケアに活かしているかは疑問である。			運営推進会議への参加が管理者や計画作成担当者に偏っているのがスタッフへの周知不足の原因と思われるので、今後はスタッフへの参加も呼びかけ、スタッフが運営推進会議の重要性を理解できるように努めていきたい。それにより、地域の方の意見や提案を今後のサービスにつなげられる様に努めていきたい。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)			
			運営推進会議以外での関わりは少ないように感じる。地域包括支援センターが毎月開催している連絡調整会議に市の担当も参加しているため、それをきっかけに何らかのアプローチが出来ればと考えている。			待ちの姿勢ではなく、グループホームの方から、積極的にアクションをかける市町村との連携等がほしい。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)			
			権利擁護に関する研修等に、出来るだけ参加するように努めているが、全ての職員が周知できているのかは不明。また、権利擁護事業が必要な利用者には、会社の代表や弁護士等と相談し適切にその権利が受けられるように努めている。			権利擁護に対する勉強会等に参加したり、職員会やカンファレンスでも権利擁護について話し合うことでスタッフの意識を高めていけるように努める。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)			
			どういったものが、虐待にあたるのか職員会やカンファレンスで定期的話し合うと共に、虐待に関する研修等に参加している。又、スタッフ同士でお互いの対応を意識しあい、虐待にあたるのでは?と感じる時にはその都度話し合うようにしている。			利用者に対する対応で虐待にあたるのではないかと感じる際には、その都度相談できる体制づくりをしている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書や入居契約書等にそって分かりやすく説明している。家族・本人が納得して上で入居していたが、入居後も不明な点があればその都度相談にのれるように努めている。入居時や入居後、退去時など不安なことや希望・要望があればその都度話を聞き、解消・実行できるように努めている。		トラブルの無いように、今後も利用者・家族に安心して利用してもらえるように努めていく。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) スタッフは利用者と密にコミュニケーションをとり、何でも話し合える関係づくりに取り組んでおり、意見は家族や管理者・計画作成担当者に伝え話し合いを持つことで、その訴えに対し迅速に対応できるように努めている。又、利用者がその様な訴えを言いやすいように一対一の時の時間を大切にスタッフは対応している。		利用者がスタッフにも話せない、事情がある話を管理者が聞いたときには、その利用者のプライバシーを第一に考え、その訴えに対するアプローチの方法を本人や家族・関係する方々のみで話し合い解決できるように努めている。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 大きな行事については、その都度、家族にお便りをしたり、年4回の広報誌でお伝えしている。日々の暮らしや健康状態・病院受診の結果等は面会時や電話・手紙でお伝えしている。金銭管理については、必要なものがあればその都度家族に相談したり、会計の報告は毎月、請求書等を発送するときに合わせて事務所から報告を行なっている。		利用者の中には家族との距離がある方もいるが、報告等を継続的に行い、少しでも家族と利用者がつながりを持てるように努めていきたい。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に一度家族会を開催し、意見交換を行なっている。又、面会時や自宅訪問時・電話連絡時に家族に要望・不満等、伺うようにしている。家族からの要望や不満があった時には管理者に報告し、その訴えに対し迅速に対応できるように話し合いをもち、ストレスを与えないように何らかの対応策を考えそれを家族に伝えるようにしている。		契約書に苦情受付窓口、苦情ポスト、受付担当者を明記しており契約時に口頭で伝えている。また、家族は「見てもらっているから」という意識が強い為、遠慮なく言ってもらえる関係づくりに努めたり、直接スタッフに苦情や要望を言いにくい時には、家族会会長も受付窓口になっていただいております。匿名で家族からの苦情・要望等を聞けるような体制づくりをしている。
		(外部評価) 家族会では、ご家族だけで話し合う機会も作っておられる。ご家族から「居室の整理整頓に努めてほしい」という意見があり、対応された。家族会主催で、利用者、ご家族、職員合同の泊旅行や日帰り旅行を実施されている。			ご家族の中にはご高齢の方も多くなり、家族会の出席人数が減少傾向のようであるが、事業所では、働きかけを工夫して意見を引き出していきたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会やカンファレンスを開催し、職員が積極的に意見を出し合えるように会議を工夫をしている。また、個別でも、いつでも意見交換や提案を話すことが出来ており、必要であれば職員会や申し送り簿を通じて職員皆が周知できるように努めている。		職員同士が本音で話し合えるよう、会議や普段の業務の中でも、話しやすい雰囲気や工夫、きっかけ作りをしていきたい。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 事前に分かっている予定については、勤務表作成時に人員を確保できるように調整している。また急な予定が入った時にも、スタッフに相談の上、勤務に支障をきたさない程度に人員の調整をしている。常に勤務については管理者と相談し柔軟に対応できるようにしている。		また、人員が足りないときには他のフロアのスタッフに応援してもらったり、ボランティア等に依頼している。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職に関しては、話し合いを行い、解決できる問題であれば出来るだけその問題を解決し、離職を最小限に抑えられるように努めている。		利用者への説明はしっかりと行い、残っているスタッフが、利用者へのダメージを最小限に抑えられるように努めている。
			(外部評価) 新人職員は、利用者に寄り添い、お話を耳を傾け、コミュニケーションに努めることを大切にされている。事業所では、スポーツジムの無料使用や職員旅行等、職員の働きやすい環境作りに取り組んでおられる。		又、管理者は、職員同士が認め合い、互いに感謝や信頼の気持ちを言葉に表せるような関係作りを目指しておられる。
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修として、事業所合同で車椅子やポジショニングの研修を行なった。 職員の疑問や受けたい希望の研修など事業所が聞き実施している。又、職員会やカンファレンス等でも定期的に勉強会を行い、スタッフの育成に取り組んでいる。		職員が満遍なく研修を受けられるようにしていきたい。又、人員の関係から事業所で新人職員に対する研修等が出来ていない為、GH連絡協議会が開催している新人研修等への参加を積極的に行なっていきたい。研修の案内をスタッフに明示し興味のある研修等に参加できるように努めていきたい。
			(外部評価) 職員会等の機会を捉え、管理者は、その時々の問題点を提示し、職員と共に考え、勉強されている。又、日々のケアの中で職員にアドバイスをされている。		管理者は、今後、研修の年間計画を作成し、さらに職員のスキルアップを図りたい、と考えておられた。 又、職員は、利用者とのコミュニケーションスキルを高めて、ご本人の思いを探っていききたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	(自己評価)		
			<p>地域包括支援センターを中心とした地域の同業者との連絡調整会議が毎月開催されているが、勤務や人員の関係上あまり参加できていない。研修等で知り合った同業者の方とは定期的に連絡をとり、新しい情報や悩み等話し合っている。今後は相互訪問や研修の受け入れ等を検討している。</p>		<p>連絡調整会議等にもっと積極的に参加し、地域の同業者の方とのネットワーク作りを行い、勉強会や相互訪問等お互いにメリットのある関係作りをしていけるように努める。</p>
			(外部評価)		
			<p>地域の同業者との連絡調整会議に参加されている。法人内の事業所と交流されている。</p>		
21		<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	(自己評価)		
			<p>毎月の職員会やカンファレンス、日々の業務の中でもスタッフが意見や悩みを言いやすいように声掛けや環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>定期的に食事会や飲み会等を行い、職員が本音で話せる場を作っている。ストレス解消のためにスポーツ施設と契約しスタッフが無料で運動できる機会を作った。去年は職員の念願だった職員旅行を実施した。</p>
22		<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	(自己評価)		
			<p>管理者と連絡をとりながら、職員の勤務状況や勤務態度・実績等、話し合いを持ち評価している。</p>		<p>スタッフと話す機会を多く持ち、その都度きちんとした評価を伝えることでスタッフは向上心を持って働けるように努めている。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
23		<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	(自己評価)		
			<p>相談があれば、その都度、事前訪問を行い、本人と話し合いの場を設け、本人の希望や思いを出来るだけ多く汲み取れるように努めている。意思疎通が難しい方には、家族や関わっている関係者に良く話を聞くことで、できるだけ本人の思いに添えるケアが出来るように努めている。</p>		<p>本人の希望や思い・不安等、良く聞き、その訴えに柔軟に対応できるように、施設側の受け皿を多く持つておくことが大切である。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前には必ず面会し、本人の状況や本人・家族の希望や思い等、話し合い、その訴えに柔軟に対応できるように、関係する事業所や関わる人も交え考え支援していけるように努めている。		本人や家族の希望や思い・不安等、良く聞き、その訴えに柔軟に対応できるように、施設側の受け皿を多く持つておくことが大切である。
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係してる方やケアマネ等から情報を集め、それをもとに管理者や計画作成担当者がアセスメントを行い、支援内容や協力を必要とする機関等判断し、その機関と連携を取り合い、支援していけるように努めている。		幅広く、他のサービスも含めた支援をしていける為に、日頃からそのような機関と連携し関わりを多く持つておくように努める。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前訪問や事前の見学、体験入居、入居時の家族との宿泊を通して利用者が徐々にホームでの生活に慣れていくように努めている。 入居して間もない方は、そっと一人の時間を過ごしていただいたり、関わりを密にとる事で少しずつホームに慣れるように対応している。		家族や本人の周りを取り巻く方々との関わりも密に取り、利用者第一に考え、利用者の新たな生活のスタートが今までと変わらないものであるように努める。 自宅等で、使われていたなじみの物等、自由に持ち込んで頂き、環境面でも安心してもらえるように努めている。
			(外部評価) ご本人が事業所での生活にゆっくり馴染めるよう、細やかな対応に努めておられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 理念でも明記している通り、何よりも利用者と共に生きるという気持ちを大切に日々関わりを持つている。 分からない事は本人に聞き、学びお互いを尊重しながら生活している。		今後も利用者と正面を向き合っ、お互いの気持ちを理解し合いながら生活していく。
			(外部評価) 職員は、利用者と職員は互いに「支え支えられる存在」である、という思いを大切に日々支援しておられる。利用者へ地元のしきたりや祭り、方言等について教えていただくこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 今まで本人を支えていた家族の悩みや思いを、しっかりと受け止め、家族自身が負い目を感じないように、関わりを持っている。外出や行事等に参加していただき、利用者の普段とは違う表情を見ていただくことで、家族にも介護の楽しさを感じていただけるように支援している。		遠方に住まわれている家族や、家族自身が高齢になり、今までのように関わっていくのが難しくなってきたりするケースがある・・・利用者自身のケアももちろんの事、今後は家族さんも含めたケアを考えていかなければならない。それと共に、今後の利用者の人生を家族・スタッフが一緒に支えあえるような関係作りをしていく。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 自宅での生活の様子や趣味・嗜好等、本人に関わる事を伺い、ホームでの生活に取り入れられるように努めている。また、面会等に來られたり、定期的に電話やレター等で近況報告を行っている。		入居以降、家庭の事情等で疎遠になっている家族や、関わりを持ちたがらない家族もおられたが、スタッフと家族の関係は良好で近況報告や電話等させていただき、本人とのつながりを持っていただいていたことで、疎遠になっていた家族さんが年に1～2度ホームに来てくださるようになった。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ホームに利用者の馴染みの方等が面会に来てくださった時には、ゆっくりお話できるように、居室や本人のお気に入りの場所等に案内し、心地よく過ごしていただけるように努めている。また、お礼の手紙等の支援も行っている。馴染みの理容店や商店等の利用も積極的に行うようにし、馴染みの方にも喜んでいただけている。		今後、特に馴染みの方へのレター（暑中見舞いや残暑見舞い、年賀状や定期的な手紙、お礼の手紙等）に力をいれ、本人と馴染みの方との関係が切れないように努めていきたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 日々の生活の中から、利用者同士の人間関係を把握し、仲の良い利用者同士には、その関係が長く続くように配慮し、そうでない方は無理に関わりを持たせようとはせず、スタッフをクッションとした関わりを持ち方が出来るように配慮している。利用者が孤立している時にはスタッフが話し相手になったり、別ユニットの利用者との関わりを持つ等工夫している。		利用者が出来る事（特に洗濯物たたみ等）、利用者同士が協力し合い行えるように工夫している。食事の際には、できるだけ仲の良い利用者同士の席にさせていただき、楽しく食事が出来るように配慮している。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された場合でも、他のサービスを利用する際の相談窓口となれる様にお伝えしている。また、近所でお会いしたときには積極的に会話するように努めている。		退所され在宅に戻られた家族さんより、物品（福祉用具等）がどこで購入できるか、介護施設やケアマネ等、問い合わせがあった際、情報をお伝えしている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1.一人ひとりの把握</p>					
33	14	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>(自己評価) 普段の生活の中で、本人が何が出来るのか、何がしたいのか、夢や思いを聞き出し、それをケアに生かしている。また、伝えるのが困難な方も普段の生活の中からきっかけとなるような発言や行動があれば記録に残したり、家族や身近な方からの情報をもとに、本人の顔色や表情・機嫌等みながら色々工夫して関わりを持つようにしている。</p>		<p>満足のいく暮らしが出来るように、今後も本人の思いや希望を聞きだし、それをケアに活かせるように努めていきたい。スタッフの一方的な思いを押し付けるのではなく、様々な方面からみれる視点を持てるよう、スタッフの意識をかえていきたい。</p>
			(外部評価)		
			<p>職員は、利用者とのコミュニケーションを大切にされており、日々の会話や表情の中から、利用者一人ひとりの思いや希望を汲み取れるよう努めておられる。</p>		<p>管理者は、今後、センター方式のアセスメント表の利用も考えておられた。さらなるアセスメントや記録の充実をすすめ、日々のケアにつなげていかれることが期待される。</p>
34		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>(自己評価) 事前訪問時や普段の生活の中で、本人や家族、身近な方から、その方の生活歴や生活環境等聞き出し、本人さんに定着している暮らしに近づけるように努めている。</p>		<p>まだまだ、把握しきれしていない、なじみの暮らし方があると思うので、細かいところまで本人や家族・身近な方に聞き把握できるように努めていきたい。また、得た情報をスタッフで共有できるように「本人の生活史ノート」の様な物を作り申し送っていただけるようにしたい。</p>
35		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>(自己評価) 日々の利用者との関わりや、毎日のバイタル測定、表情の観察等から、利用者の状態を把握している。それをきちんと申し送っていくことで、スタッフ皆が共有できている。利用者一人一人のお気に入りの居場所を把握し、利用者に見合った関わりをしている。</p>		<p>見逃しているところもあるかもしれないので、その時その時を大切に、これからも総合的に把握できるように努めていく。</p>
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
36	15	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 「お任せします」と言われる家族もおられるが、できるだけ本人・家族を含めた話し合いを行い、それにあわせて日々の生活から出た本人の言葉や希望等をもとに介護計画を立てるようにしている。</p>		<p>「お任せします」と言われる家族についても、積極的に連絡を取り合ったり、ホームに足を運んでいただいたりして、色々なアイデアや意見を出していただけるように努めていきたい。スタッフ主導のケアプランではなく本人・家族の希望や思いを叶えられるプラン作りに取り組んでいきたい。</p>
			(外部評価)		
			<p>ご本人の希望や思いを主体に、介護計画を作成されている。</p>		<p>さらに、利用者個々の生活歴等も踏まえ、ご本人らしい暮らしが継続できるよう、介護計画の作成についても工夫を重ねていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月カンファレンスを行い、3月に1度見直しを行なっているが、見直し前であっても、本人や家族等から新たな希望や思いがでたり、状態変化に伴う見直し、日々の生活の中で新たな発見があったときには、個別の担当者や計画作成担当者を中心に本人・家族と協議の上、新たにケアプランの見直し・作成を行なうようにしている。		日々の生活と連動したケアプランを作成していく必要がある。見直し時には、利用者の変化や家族の思いを聞くようにし継続性を持って行っていきたい。また、スタッフ皆で話し合いプランについては認識しあえているように感じたが、より把握できるように、追加事項・変更事項等きちんと書面に残していきたいと思う。
			(外部評価) 3ヶ月ごとの見直しと、状態変化に応じた随時の見直しを行っておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) スタッフは記録の重要性を認知しており、日々の状態変化や気づき、利用者の言動等、変化があつと時などは申し送りの徹底をはかり周知に努めている。しかし、ケアプランに関しては意識して対応し、記録も行なっているが、介護計画の評価には直結していないように感じる。		前項でも述べた通り、日々の生活と連動したケアプランを作成していく必要があり、そうする為には日々の生活を記録した介護記録の記入方法等（利用者の言葉や表情など）もっと考えていかなければならない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 外出。外泊、病院受診、買い物、お墓参り等、様々な状況の中で希望があれば、その都度対応し家族にも本人にも喜ばれている。		今後も継続して行なっていきたい。
			(外部評価) 美術館や行きつけの理美容院、ご自宅訪問等に同行されている。利用者のご家族の入学式に、職員が付き添われたこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		(自己評価) 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くに大学がある為、行事があるときには、学生を通じたボランティアの受け入れや、日々の生活の中でも、地域の図書館等によく利用している。また、警察や消防には利用者がもし、行方不明になった時に即対応してもらえる様に利用者の顔写真や特徴を明記した資料を渡している。		運営推進会議を通じて、もっと幅広い地域資源の活用に努めていきたい。 いきつけの喫茶店や美容院は利用者のためにスロープを設置して下さったところもある。
41		(自己評価) 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネや相談員、特に地域包括支援センターのケアマネとは色々な話や相談ができ、多方面のサービスを利用できる為のアドバイスや支援をうけ、それをもとに必要であれば利用者個々にあったサービスを受けられる体制作りに取り組んでいる。		地域包括支援センターを中心とした、地域連絡会議の参加が、あまり出来ていない。もっと積極的に参加しより多くのサービス事業者との関わりを持ち、利用者により多くのサービスを提供できるように努めていきたい。
42		(自己評価) 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日頃から、地域包括支援センターと連絡を取り合い、相談等、連携が出来ている、特に運営推進会議を通じ、ホームに直接、支援センターのケアマネが来るようになってからは、生の利用者の声や希望を聞いてもらえるようになり、よりサービスに厚みが出来てきたように感じる。		なお一層、地域包括支援センターとの連携をはかり、利用者から要望があった際には、迅速に対応できるようにする。
43	18	(自己評価) かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の事前訪問時に、本人のかかりつけ医を聞き、入居後も続けて受診や往診をしてもらえるようにしている。また、受診・往診後の報告を家族に行い、もし本人や家族がその受診結果に不満があるようであればセカンドオピニオン等積極的に行なっている。その際のかかりつけ医への配慮も十分に行い、報告や連絡等しっかり行なっている。		馴染みのかかりつけ医の受診も大切であるが、利用者の状態によっては専門でない医師の受診を希望されるときがある為、それぞれの状態により、医師の選択や、その為に家族や本人への説明が必要である。状態により、かかりつけ医から別の医師を紹介してもらえるような関係作りに努めていきたい。
44		(自己評価) 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に連携を取り合い、利用者の変化を敏感に感じ取り医師に相談できる体制作りが出来ている。医師もほぼ毎日ホームに往診に来てくださるため、利用者の状態が良く分かっており、利用者も気遣い無く医師に相談できている。		定期的に認知症の検査が出来る施設のある病院との連携も今後はかかっていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 医療連携体制を通じて、協力病院の看護師が毎週1回訪問してくださり、毎日のバイタルチェックの結果や介護記録、利用者への口頭のチェック等で日々の健康管理に対するアドバイス等を得ている。また、必要であれば専門医等への連絡など、橋渡しの役割もいただいている。		利用者がよく利用している病院の看護師と契約している為、利用者も安心して、自分の身体のことを話せている。また、医師への連絡等をしてくださることで、スムーズに医療を受けることが出来ている。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時、ホームで使用していたものや馴染みの物を持参したり、スタッフがお見舞い等、頻回に行くことで利用者の不安を軽減している。スタッフは日常生活の事を病院関係者に伝え入院しても出来るだけ本人の生活ペースがかわらない様に配慮してもらえよう努めている。		お見舞い時に病院関係者に本人の状況を伺ったり、退院後気をつけること等を聞くことで、ホームの環境を整え早期退院できるように努めている。 また、家族にも安心してもらえるように、連絡を取り合ったり場合によっては一緒にお見舞いに行ったりしている。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時や入居後も定期的に、ターミナルケアについての話を家族にする事で家族には理解を得ている、急変時や終末期の家族の混乱・不安を考慮しグループホームでの環境を整えたり、かかりつけ医との連携は普段から蜜にとってている。また、混乱時に、いくつかの選択肢も準備しておき家族が判断しやすいように取り組んでいる。		本人や家族の考えや希望を十分に話し合い、かかりつけ医にも、その事を報告し本人に関わるすべての人が方針を共有できる体制作りに取り組んでいる。 また、状況の変化に柔軟に対応できるように、日頃からスタッフにはターミナルケアに対する意識付けをし、より家族や本人に安心してもらえるように努めている。
			(外部評価) 入居時、ご本人やご家族に、重度化時、終末期の支援の方針について説明をされている。これまでに、職員に見守られて最期を迎えられた方もおられ、ご本人、ご家族の立場に立ったターミナルケアに努められた。		現在、介護度が重度の方が多くおられ、管理者は、さらに、介護技術の向上を図っていきたくと考えておられた。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 普段から定期的にターミナルケアについて家族・スタッフに話しており、家族・スタッフ・医師が利用者第一に考えたケアを進めていけるように取り組んでいる。グループホームの環境を整え、グループホームで出来ることの幅を広げられるように努めている。		利用者の終末期をスタッフ全員が大切な時間ととらえ、利用者・家族の不安を軽減し穏やかで安らかな時間になるように支援していきたい。また、状態の変化にスムーズに対応できるように、医師・看護師も含めた話し合いをもっと蜜にとっていけるようにする。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今までの生活を継続できる為に、家族や関係者・本人と話し合い、情報交換等できている。		以前の状態・ケアを継続して行えるように、ケアマネ、家族、関わる関係者等に情報提供し、住み替え等に伴うダメージの軽減に努めている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) プライバシーの確保は徹底して行っている。入居時に家族・本人に個人情報の取り扱いについては説明し、病院受診等、必要な情報提供以外は外部に漏らすことは無い。利用者への言葉掛けや対応にも配慮している。</p>		<p>基本的に、利用者一人一人に合わせた声掛けを行っている。特に言葉掛けや感情のコントロールについては、この一年職員の目標としていた為、以前に比べると、その時の気分や雰囲気にならなれど、冷静な声掛けや対応が出来てきた。今後も職員会やカンファレンス時に話し合ったり、個別に話したりしていきたい。</p>
<p>(外部評価)</p>					
<p>職員は、丁寧で穏やかな言葉かけを心がけておられる。調査訪問時、利用者の前に置かれている物を取る際に、職員は「前を失礼します」と言葉をかけておられた。</p>					
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 日々の生活の中で、その都度利用者に聞き、判断・決定してもらえるような声掛けを行なっている。また、自分で判断しきれない方にはいくつかの選択肢を提案したり、判断できない方には家族に聞いたり、本人の生活史等情報をたどって出来るだけ本人の思いに沿えるよう考慮しながら支援している。</p>		<p>自己表現が中々出来ない方も、いくつかの選択肢を出すことで、自分で決めたりする事ができる場面もあり、色々試しているところである。基本的には全ての場面で利用者の意見を聞くように心がけている。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者中心の生活が出来るように、特に業務マニュアルは作っておらず、スタッフは利用者のペース・希望に応じて柔軟に対応できるようにしている。また、そうする為に、スタッフ同士普段から声を掛け合い、ケアを統一できるように努めている。</p>		<p>利用者個々のペースで意思を尊重し過ごしていただいている。常にどのように過ごしたいのか聞いたり、考えたりして利用者にはその日したいことをしてもらえよう支援をしているが、その日の人員や訴えによっては即座に対応できないことがある為、ボランティアや別ユニットの協力等得て、希望に沿った支援をしていきたい。</p>
<p>(外部評価)</p>					
<p>職員は、利用者のペースや気持ちに寄り添うことを大切にされている。昼食時、お一人だけ時間をかけて召し上がっておられる方に職員は、「ゆっくりでいいですよ」と声かけされ、その方の食事がほぼ終わるのを待って、食器洗いに取りかかっていた。</p>					

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容店に関しては馴染みの店がある方については、その店を利用できるように理美容店にも協力していただき利用している。特になりに関しても、地域の店を利用できるように支援している。 衣類等も同様、馴染みの店がある方はそのお店に出向き、購入したりしている。		身だしなみ等については自分で出来る範囲については自分でしていただき、出来ていないところや、出来ないところを手伝っている。髪型等については、その日その日の気分を利用者に聞きながら結び方を変えたりしている。 お化粧品をされる方は、化粧品を使われるときの支援に心がけたい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえや味見、味付け、盛り付け等できる範囲で協力しながら行なっている。片付けも出来る範囲でもらっている。献立は利用者の希望を聞きながら栄養士が作っている。また、ホームの菜園で出来た物や地域の特産品、旬な物を使うことで食事時の話題作りにも努めている。 (外部評価) 訪問時の昼食は、その日が誕生日の方の希望で、お赤飯と白和えがメニューに加えられ、彩りも工夫されていた。食後、下膳されている利用者がうかがえた。時には、下ごしらえや食器洗い等をされる方もおられる。		食器や盛り付け方法を考え、見て楽しめるように工夫している。また、出来るだけ口から食べられるように利用者個々に合わせキザミ食やミキサー食等食べやすい工夫をしている。馴染みの箸や食器、使いやすい箸・食器など使用し食事を楽しめるように努めている。 管理者は、今後さらに、利用者が食事作り一連の流れにかかわれるよう、職員の働きかけを工夫していきたいと考えておられた。食事時の利用者の姿勢にも配慮される等、おいしい食事をさらに楽しむことができるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 入居前に本人の嗜好品を聞き、出来る範囲で支援できる体制作りをしている。お酒やタバコに関しては本人や家族と相談しながら、飲み過ぎない程度で本人の希望にそって支援している。おやつ等ホームで準備しているが、それ以外のものについても自由に持ち込んでいただいたり、購入したりして本人のストレスにならないように支援している。		意思疎通が取れない方に関しても、家族から話を聞いたりして好みを把握し支援できるように努めている。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 出来るだけ、トイレで排泄してもらえるように、随時トイレの声掛けや誘導を行なっている。また、トイレに座るのが困難な方に対して、その方にあったオムツやパット、パンツ等を使用し、排泄チェック表をもとに、その方に合わせたオムツ等の交換を行なえるように努めている。		その日の体調や尿量、便の形状等、観察しそれに合わせた食事や水分補給等工夫して行なっている。また、便秘に対するアプローチも下剤をすぐに使用するのではなく、水分や食事・おやつ等工夫して自然に排便できるように努めている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者からの入浴希望があれば、その都度対応している。また、こちらから声掛けする時には本人の意思を必ず確認してから、入浴していただいている。お風呂は24時間毎日入れるようにしている為、入浴時間等制限無く本人のペースで入浴していただいている。		出来るだけ、希望にそって対応しているが、介助がいる方等については、人員配置の関係上、夜間の入浴(20時以降)が難しい時がある。
			(外部評価) 夜間に入浴される方もおられる。入浴を拒まれる方には、言葉かけを工夫されたり、銭湯や温泉を利用する場合もある。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) お昼寝をする方もいたり、昨夜の睡眠状況に応じて、適度に日中休んでいただいたりしている。就寝時間の決まりはなく、ここの生活のリズムに応じて、眠りたい時に就寝していただくようにしている。		居室で休まれる時には、室温や光の具合、物音等に気をつけ、心地よく休んでいただけるように気をつけている。夜間眠れない方に対しては、ゆっくりお話をしたり、飲み物等をお出しし、安心していただけるように支援している。眠剤等できるだけ使用しないですむように、医師や看護師に相談したり、アドバイスを受けたりしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人の趣味や生活歴を把握しておく事で、読書・スケッチ、新聞折り、洗濯物たたみ、生け花、花の水やり等、利用者それぞれが充実感、楽しさを感じていただけるよう、生活の中での役割を持ったり、趣味などある方は継続的に取り組んでいけるように支援している。		散歩や外出等、気晴らしの支援が、もう少し個別に対応できるように、人員の配置や増員を考えていきたい。
			(外部評価) 「文芸春秋」を毎月購読される方、編み物をされる方、折り紙作品を他の利用者の方に差し上げる方等、利用者一人ひとりが楽しい時間を送ることができるよう、支援に努めておられる。昼食後、新聞記事を話題にして、職員との語らひを楽しんでいる利用者の様子がうかがえた。訪問時、100歳を迎えられた方の誕生会が催され、花束とプレゼントを贈り、和菓子を召し上がりながら、皆さんでお祝いされていた。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持って、自分で管理できる方については自分で管理されているが、トラブル防止のため、本人や家族にはお金を持つておくことで起こりうるリスクの説明を行い、もし紛失しても大きなトラブルにならないように大金を所持するのは出来るだけ避けていただけるように説明し理解していただいている。また、いくら所持されているか家族に確認していただきスタッフに伝えてもらっている。		スタッフは利用者が自由にお金を使える事についての大切さを理解しており、買い物や散髪等そのような場面が持てる様に支援している。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			買い物や病院受診・散歩等、出来るだけホームの外に出る機会を作るようにしている。		人員の関係上、買い物等希望があったときに、即対応できない事もあるが、必ず行ける時間を伝え約束し実行している。
			(外部評価)		
			食材や洋服等の買い物に出かけられたり、毎朝の散歩を日課とされている方もおられる。利用者、ご家族、職員合同で、大三島や道後の1泊旅行や忘年会を楽しまれている。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			天候や季節を考え、事前に外出計画やスタッフが下見しておく事で、その日に合わせて人員の確保やボランティアの受け入れ等している。		計画的に行程や時間、現地の環境を把握しておく事で、利用者に負担を与えず外出できている。(劇場やバラ公園、花見や墓参り等) 年に一度、一泊旅行か日帰り旅行、渡船を使っのミニクルージングや島渡り等行っている。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			本人の希望があったり、家族や大切な方の心配や会えない不安等、訴えがある時に、電話や手紙の支援をしている。自分で電話が出来る方に対しては、自由に電話をしていただいており、困難な方についてもスタッフが仲介しお互いの言葉を伝えられるように支援している。		書ける人書けない人に関わらず、季節のレターや年賀状、暑中お見舞い等、利用者からの声を待つのではなく、スタッフの方からアプローチし家族や大切な人との繋がりをもっと取れるような関わりをしている。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			面会時間は設定せず、いつでも面会できるようにしている。面会時は、利用者・家族等が気軽にお話できるように、好きな居場所で過ごしていただいている。挨拶やお茶だし等、利用者・家族が居心地良く過ごせるように配慮している。また、ホームのお便り(風早便り)を渡したり、お見送りをしている。		居室以外で家族と利用者だけで過ごせる場所が無い為、談話室や喫茶室等、家族と利用者だけになれるスペースを作っていきたい。今後、今まで以上に、家族や馴染みの方が訪問できるように、気持ちの良い挨拶や、心地よい居場所を確保し、気軽に訪問できるような雰囲気作りに取り組みたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 普段の生活の中で身体拘束について話し合ったり、スタッフ同士確認しあっている。 また、職員会やカンファレンスで定期的に、身体拘束についての勉強会や話し合いを行う事で、スタッフは身体拘束をしないという意識を持ち、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		今後、やむなく身体拘束が必要なケースがある場合は、家族・本人・医師・職員を含め、良く話し合い、できるだけ、身体拘束を行わないケアを実践していく。今まで通り、定期的に身体拘束について話し合ったり、常日頃から、スタッフが意識することで身体拘束をしないように努める。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の行動を制限するための施錠は行わない。日中は常に玄関を開けている。居室や玄関の鍵を閉め利用者の行動を制限したときに、利用者が感じる気持ちや、様々な弊害を職員会やカンファレンス時、又は常日頃からスタッフには話しているので、スタッフは良く理解できている。 (外部評価) 日中は、玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるようになっている。		今後も、鍵をかけることの意味を理解して継続すると共に、利用者の心の鍵も外していきたい。
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室に戻って、過ごされる方は時間を見ながら居室を訪れ、状態を把握するようにしている。帰宅願望等あり外に出て行かれたりする方には、少し距離をあけて着いていくなどして見守りを行なっている。 スタッフ同士が常に声を掛け合い、利用者の所在の確認や、スタッフの立ち位置等、気をつけて行なっている。		夜間、定時の巡視時に利用者の居室に入るときのプライバシーに配慮する。また、居室のドアを開けっ放しにしないようにする。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 基本的に個人の持ち物は居室で保管してもらうようにしているが、針やハサミ等、事故につながる可能性がある物を使用するときには、出来る限り目の届くリビングで使っていたり、居室で使用するときには、スタッフがいたりして危険防止に努めている。 ホームの物品は事務所で管理している。		利用者一人一人の持ち物は、きちんと把握できている。危険なものは本人や家族に相談し納得の上、保管したり片付けたりしている。 普段使うもので、危険なもの（鋏や包丁、消毒液等）の保管場所には気をつける。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態を把握し、転倒の危険がある方については、必ずスタッフが側についておく等気をつけている。 配薬はスタッフがを行い、服用時も再度確認し服薬の見守りや介助を行なっている。各事故に対するマニュアルを作成しており、定期的に話し合いを持つことで、意識を高め事故防止に努めている。		防火の意識を高める為に、年に2度、消防機器の点検及び避難訓練・消化訓練を行なっている。喫煙場所を設定し、利用者の方にも理解を得て、喫煙時は必ず喫煙場所で吸って頂く様にしている。行方不明時には迅速に発見できる為に、地域の消防署や警察に利用者の顔写真や特徴を明記した書類を渡し不明になった時等の協力を依頼している。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時には「急変時の対応マニュアル」に沿って対応している。また、スタッフには利用者の体調の変化を見逃さないように、常日頃からバイタルサインのチェック等気を使い行なう様に指導し、急変した場合や事故発生時に的確に対応できるように努めている。		以前、消防署に依頼し、救急講習をしていただいたが、スタッフの入れ替わりも有り、応急手当や初期対応の訓練が不十分なスタッフもいるため、早急に講習等行なうなどして、充実をはかっていきたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署員や防火機器会社職員の立会いのもと、避難訓練や消火訓練・防火設備の点検等は年に2度行なっている。その際、地域の区長さんや民生委員、近所の方にも参加していただき、ホームの間取りや避難方法・避難経路等確認していただき理解やアドバイス等頂いた。		夜間想定での避難訓練では、2名のスタッフでは避難した利用者の見守りをしないといけないなど、中々全員の救助が難しく、近隣の方の協力が必要だと感じた。その為に、近所の方には、避難場所での利用者の見守り等の役割をして頂けたら助かると、お願いをすると、快く了解を得れた。また、災害時に利用者を保護して下さる近所の方宅が2件確保できた。
			(外部評価) 毎年、3月と10月に、地域の方にも参加いただき、避難訓練や防火設備の点検を実施されている。避難場所での利用者の見守り等、ご近所の方の協力も得られている。		管理者は、今後、地区の消防団との連携を推進していきたいと話しておられた。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者・家族には入居時や日頃から、リスクについて話し合い、説明・同意を得ている。		リスクがあるから制限するのではなく、色々な方向から考え、本人・家族の希望を聞きながら、実現できるように取り組む。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い、普段との変化の違いを見つけやすいようにしている。また、普段と様子が違ったり、表情・顔色等に変化があれば、声掛けや必要に応じてバイタル測定している。体調の変化に気付いた時には、かかりつけ医に報告するなど、適切な処置を行い、スタッフ皆が共有できるように、業務日誌等に記録をし申し送っている。		引き続き、バイタル測定や口頭での健康チェックを毎日行い、日々の体調の観察、体調が変化した時の早期発見に努めたい。又、それを、きちんと記録に残し、スタッフが確実に共有できるシステム作りに取り組みたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に目を通す機会を作り、薬の変更があった場合は、連絡簿等に記載し、スタッフ皆が薬や効能を把握する事ができている。 薬局と提携しているため、薬の効能や副作用、飲みかた、注意事項等、薬剤師からの指導を受けられる。		服薬開始からの利用者の状態の変化は、ちくいち医師に報告し、薬の飲みすぎや、利用者に適した薬の使用を医師や薬剤師と相談しながら行っている。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を作り、個々の利用者の排泄の状況を把握し、便秘に対するアプローチも飲食物(ヨーグルトやオリゴ糖・海藻類)に工夫し、緩下剤等できるだけ使用しないで済む方法を医師や看護師と相談している。		出来る限り、自然排便を促せていける様に、水分コントロールや飲食物の工夫をしていく。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの講習・勉強会等ができておらず、スタッフの口腔ケアに対する知識や意識・重要性が低いように感じる。利用者も毎食後、実施出来ている人は限られており、自立できている方については本人に任せている。その他の方は、一日一回就寝前等に口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		協力歯科医に依頼し、まずは利用者・スタッフ一緒に口腔ケアに対する講習会を受け知識や意識付けをしていきたい。一日一回の方は毎食後口腔ケアできるように、自立している方は定期的に口腔内の状態を把握できるように努めていく。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人の適量を把握し、体調や本人の希望に合わせて量を加減している。 水分量に関しては、食事時やおやつ時以外にも、随時摂取できるように、手の届くところに急須や麦茶入れをおいており、訴えがない方に対しても、声掛け等水分摂取のアプローチをしている。 (外部評価) 管理栄養士が献立を作成されている。食の進まない方には、ヨーグルト等の食べやすいもので補食されている。水分は1200ccを目安にし、折を捉えて、コーヒーや紅茶、ジュースや牛乳を飲むようにされている。訪問時の昼食後は、皆さんでコーヒーを飲んでおられた。		介護記録に詳しい水分摂取量までは記載してないが、大まかな摂取量(コップ1杯とか)を記載している。より多くの水分を摂取していただける為に、飲み物の工夫(コーヒーやジュース類)をしている。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症予防の対応マニュアルを作成しており、スタッフに周知できている。利用者の対応についても、必要に応じて職員会で伝え、手洗いの励行など基本的なことも随時伝えるようにしている。		再度、勉強会を開き、スタッフ全員が再確認できるようにする。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>管理栄養士の指導のもと、シンクや台所周り、冷蔵庫の中や食器棚等の消毒・掃除は毎日行っている。食材に関しても、地域の八百屋や魚屋・肉屋から新鮮な物を配送していただく事で、安全な食を提供できている。</p>		<p>時々食材の発注をしすぎて、材料を使い切れないうちがあるので、適量を注文するようにしたい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>季節によって(冬以外)玄関は開放している。花や緑の植物を植え、施設的ではなく、家庭的な雰囲気になるようにしている。</p>		<p>玄関前に、どなたでもくつろげる様に、テーブルや椅子を設置している。玄関近くに、地域のアイドル犬のさくらを飼っており、子供や犬好きの方が寄ってくださる。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>リビングや玄関は季節によって飾り付けを変えたり、タペストリーで壁を飾ったりしている。また、庭で咲いている花を生け季節感を感じられるようにしている。リビングがやや狭いため、車椅子で移動する際、ソファに当たったりする事がある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>共用空間には、観葉植物や季節の花、利用者が手作りされた折り紙の作品が飾られていた。壁には、行事の折等の利用者の写真が貼られていた。窓からは、高縄山が眺められ、犬や猫も飼っておられた。</p>		<p>ソファやテーブルの位置を考え、車椅子の移動もスムーズに出来るような工夫をしたい。 リビング内の飾り付けに、もう一工夫したい。 テレビの音が少し大きい時があるので、気をつけたい。 室温や湿度等には気をつけている。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>生活の中で、自然に利用者の定位置が決まり、食事時以外は、それぞれが落ち着くお気に入りの場所で過ごされている。 自分で訴えがない方に対して、表情や顔色を見ながら、対応するようにしている。</p>		<p>要望があった後の対応として、それっきりにするのではなく、有意義な時間を過ごしていただく為に、音楽を掛けたり、声掛け等行うなど、その方に合わせた工夫をしていきたい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			認知症高齢者の環境の変化に伴う様々な弊害を説明し、利用者の不安や混乱の軽減の為に、使い慣れた物や、馴染みの物を自由に持ってきて頂きたい事を伝え、理解・協力をして頂いている。入居後も、利用者が必要と感じているなら、家族に伝えたり、自宅に取りに帰ったりして、利用者が自分の空間を作れるように支援している。		鏡台やタンス・テレビなど、昔から使っていた馴染みの物を持ち込まれている方もいるが、入居時に取り急ぎ買い揃える方もおられる。 自分で、居室の整理や模様替え等できない方に対しては、一緒に相談しながら協力して、自分の部屋作りの支援をしている。
			(外部評価)		
			居室には、タンスやソファ、鏡台等を置かれていた。思い出の写真やご家族の卒業証書、お気に入りの歌手のポスターや模型飛行機等を飾っておられる居室もうかがえた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			温度・湿度の調節は利用者に尋ねながら、適宜行っている。掃除・調理時は窓を開けたり、換気扇を使用し匂いがかもったり、ホコリがまったりしない様子を気にしている。一日何度かは窓を開放し空気の入替えをするようにしている。		生ゴミや汚物は新聞で包み、匂いがもれないように蓋つきのゴミ箱に捨てるようにしている。 エアコンの温度設定はスタッフに合わせるのではなく、利用者に関心しながら調整している。湿度が低い時には加湿器や室内に洗濯物を干すなどして湿度調整に努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			利用者一人一人の状態を考え、必要などころに手すりや、もたれる事が出来る物、椅子等を置いている。ベットの高さも一人一人に合わせている。		手すりや、もたれる物が設置できないところを、いかに利用者が安全に利用できるか考えていかなければならない。どこにでも手すり等を設置するのではなく、利用者の身体状況や運動能力を把握し、利用者と一緒に必要などころに設置するようにする。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			居室やトイレ等には利用者から見えやすい位置に名札を貼っている。居室の場所が分からなくなる方については、居室前に目印となるものをおいたりしている。		利用者が「自分でできた」と思える支援等、環境作りに取り組んでいきたい。利用者一人一人の状態を見て、必要であれば声掛け等行う。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			リビングからベランダに出るところや玄関の出口に段差があり、駐車場から外に出る所は急な坂がある為、車椅子の方が一人で自由に外に出るのが難しい。ホームの庭や玄関前には花や野菜を育てて見ても楽しめる。		玄関ポーチに椅子やテーブルを設置し、皆で憩える場所を作っている。季節によっては、よしずを設置し日陰を作っている。 利用者の意識が室内ばかりでなく、外に向いていけるように、利用者と協同して花壇作りや野菜作りなど、もっとしていきたい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	自分の思いを伝えられる方には、直接尋ねたり話の中から汲み取っている。意思疎通が難しい方や、困難な方は家族や身近な方から希望を伺ったり、その方の生活暦・日々の生活の中での表情や顔色等から汲み取り、スタッフ同士が話し合い、その方の思いに近づけるように支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある ② 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	人員の関係上、行事や病院受診等でバタバタしてしまう事があるが、食後やおやつの時間、また計画的に時間を作り一緒にお茶やコーヒー等、一緒に飲みながら会話したり、居室を訪ねたりして、ゆっくり一緒に過ごせる時間を作るよう心掛けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その方の生活ペースに合わせ、起床や就寝していただき、食事も個々のペースで召し上がってもらっている。他の時間はリビングや自室等、自分の好きな所で過ごしていただいている。読書をされたりテレビを見たり、休まれたり色々であり、それにスタッフが合わせている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	人員の関係上、バタバタしてしまう時は、混乱を招いてしまう事があるが、ゆっくりと時間をとれる時は、冗談を言ったり、一緒に会話したり、外出や散歩等、利用者が求めている事や気分転換等を図れている。同様にスタッフも一緒にゆっくりした時間を過ごす事で余裕ができ、共に生活できている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの人員や天候で左右される時があるが、事前に計画をしている外出の行事や利用者との約束時には人員を調整し対応できるようにしている。基本的には、利用者からの訴えがある時には、その時できなくても、その日のうちに必ず対応できるように努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々のバイタルチェックより変化を見つけたり、表情や顔色・声のトーン・生活の様子などから、体調の変化をいち早く察知し、協力病院の医師や看護師・かかりつけの医師等に相談し何らかの指示や往診等していただいている。週1度看護師の健康チェックや健康に対するアドバイスをもらう事で、利用者は安心して生活できている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの要望がある時には、出来る限りすぐに対応するように努めているが、人員の関係上、その時対応できない事でも、その日のうちには必ず対応する事約束し、対応できるように別ユニットの協力やボランティアを依頼するなど実行できるように努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時又は定期的に電話で現状報告をしたり、季節の広報誌やレターを送付する事で、家族との関わりが多くとれ、信頼関係も出来ている。また、その時に希望や不安な事等、何う様にしているが中々意見が出ないのが現状である。しかし、家族会や行事がある時には家族さんも積極的に意見や要望、困っている事や本人のケアで昔困っていた事など話して下さる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	小学校や中学校の職場体験授業などを通じ、地域の子供が普段でも遊びに来てくれ、利用者の話し相手になってくれたり、ホームのペットの世話など良くして下さる。自治会に加入した事で地域の方の訪問も増えてきている。納涼祭等の行事には、かなり多数の地域の方が参加して下さった。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが広がったり深ま り、事業所の理解者や応援者が増えている (自己 評価)	1 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない 運営推進会議を通じ、地域の自治会に加入する事で、地域の行事や公民館の掃除・ゴミ当番等 に参加し、今まで関わりが薄かった地域の方と交流が出来るようになった。推進会議にも少し づつではあるが、地域の方の参加が増えてきた。
98	職員は、生き生きと働けている (自己 評価)	① ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない 常に笑顔を心がけ、利用者と関わりを持てるように心掛けている。スタッフ同士が悩みや思 い・夢を話し合えるような関係になれるように努めていきたい。出来るだけ、ストレスをため ない様に、アフターの付き合いや、自分の意見を聞いてもらえる環境作りに取り組んでいき たい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う (自己 評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 特に利用者から不満の声は聞かれない為、おおむね満足されているのではないかと感じるが、 それに慢心することなく、日々自分達のケアのあり方を再確認しながら、利用者のケアに望 み、満足していただけるように努める。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う (自己 評価)	① ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない 家族には面会時や電話時などに、「良く見ていただいて、ありがとうございます」と言われる が、まだまだ家族は「見てもらっている」という意識が強いように感じる。利用者に良いケア をしていくためには、どんどん意見を出していただいた方が、ありがたいことを認識してい ただき、遠慮なく意見を言える関係作りに取り組んでいきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・ 玄関の装飾に力を入れている。利用者をはじめ訪れた人に季節感を感じていただく為、シーズン毎に変化させている。
・ 動物と触れ合える環境(犬や猫)を作り、遊びに来る近所の子供との交流に一役かっている。
・ スタッフ同士の連携がよく、話しやすい雰囲気がある。
・ 管理栄養士の指導のもと、食材等、新鮮な物を求め地域の八百屋や魚屋・肉屋を利用している、地域とのつながりを持つと共に、食の安全性も考えている。
・ ホーム内の臭いがなく、こまめな清潔管理を行っている。
・ 利用者・スタッフ共に笑顔が多い。
・ 毎年、家族会主催で利用者・家族・スタッフ合同で一泊旅行か日帰り旅行、忘年会等を行っている。